



ユーラシアンホットライン

VOL-20

2000年7月発行

■ごあいさつ

ニュースレターは、クラブの活動方針や運営のあり方について検討していたため、7ヶ月ほどお休みをいただいておりますが、このたび装いも新たに復刊いたしました。今後ともよろしく願いいたします。

■クラブの改革とボランティア募集について

現在クラブでは今後の活動方針や運営のあり方について話し合いを続けてまいりました。今後は、個々の活動についてそのつど実行委員会を立ち上げて運営していくことになりました。自分のできる範囲でボランティア登録していただいた方をクラブの会員としてお迎えし、留学生といっしょに活動する予定です。詳細は追ってご提案いたします。

■新宿に小会議室を確保

以前からの懸案であったクラブの“溜まり場”の設置が今年2月に実現しました。新宿駅南口から徒歩5分の甲州街道沿いという好立地です。高層ビル群の林立する中にありながら、プレハブ平屋建てで小公園に隣接し居心地のよい場所です。パソコンなども導入され、クラブ運営の拠点として機能し始めました。

住所/渋谷区代々木2-13-2第一広田ビル南側(甲州街道の南)

電話/03-5371-5548

交通/JR新宿駅南口甲州街道沿いに南側歩道を西進(文化学院方面)徒歩5分

■クラブ催し物情報

■ユーラシアンクラブ親睦合宿:鎌倉材木座海岸海水浴のご案内

[親睦合宿の内容]

新宿の会議室のオープン、ユーラシア言語文化塾の開始、とクラブの新しい段階を踏まえ、今後ウエートを置いて実施する情報交換や支援協力活動を発展させるため親睦懇談会を開催します。留学生が腕を振るう民族料理、歌や意見の交換、材木座海岸での海水浴や交流会などユーラシアンクラブの理解親睦協力促進の活動の一環として実施します。

[日時] 7月15, 16日

[場所] 神奈川県鎌倉市材木座6丁目5-15 羽賀 正雄宅

道路をはさんで砂浜の海岸が見えます。歩いて海岸まで1分。

[集合時間] 民族料理準備の人は午後1時集合、海水浴希望の方は午前中からおいでになって結構です。夕方は、二階で交流会。翌日は、10-12時、スイカ割り。午後海水浴もしくは社寺見学後、流れ解散。

[交通] 横須賀線で東京駅から約1時間。東海道線大船駅から2つ目、鎌倉駅下車。東口バス停7番から、小坪行き光明寺下車1分。

[連絡先] 大野(携帯電話):070-5130-8884

[会費] 食材費、携帯コンロ、ビニールシート等購入費として一人3千円(留学生2千円)

[その他] お酒、ジュース、つまみ等持込、歌、楽器等の準備歓迎。

[参加者] 事前申し込み(ファックス0463-50-3336)。寝袋持参。40人以内。

■言語文化塾が好評

5月より開講されたユーラシア言語文化塾が好評です。第1期として現在開講されているのは、「やさしいウイグル語会話」「ローマ字で学ぶモンゴル語会話」「ウズベク言語文化塾」「火の国アゼルバイジャン言語文化塾」の4コースで、延べ28人がコースを選択しました。講師は、大学院、学部留学生あるいは社会人として来日中の、誠実で行動力のある青年で、自分の民族の暮らしと文化、自然と歴史などを紹介しながら「言葉だけでない文化」の理解促進のため頑張っています。各コースの終了後は、楽しく民族料理を食べる会を開催します。秋からは第2期としてI口琴・喉歌編(講師:直川礼緒さん)、IIウイグル編(講師:ムタリフさん)、IIIモンゴル編(講師:アロハンさん)、IVウズベク編(講師:ベグソドさん)、Vアゼルバイジャン編(講師:ザウルさん)を開講します。クラブでは、今後もキルギス語、サハ語、オロチョン語やナナイ語、アイヌ語などの日本語に特に係わり深いツングース系言語も含め様々な少数民族言語の講座を実施していきたいと考えています。詳細・お問い合わせ・お申し込みはクラブ事務局まで。

★場所:ユーラシアンクラブ小会議室

★募集人員:各コースとも5人から10人

★受講希望者は、コース毎に申し込み。入金確認後受講決定。5回コース1万円、3回コース6千円。

入金口座:東京三菱銀行虎ノ門支店 普通1053500

ユーラシアンクラブオオノリョウ

★欠席者はテープによる補講あり。

（講師のひとりアゼルバイジャンのザウルさんの声）

私は昨年の5月に来日して、この短い間に様々な日本の方と知り合いました。そこで気づいたのは、又心が痛んだのは、日本では南一西アジアについての情報が足りなさすぎるということでした。今、ユーラシア言語文化塾での素晴らしいチャンスを使い、アゼルバイジャンという母国と隣国について話をさせていただき、本当に嬉しいです。アゼルバイジャン史や、文化などの話をしながらアゼルバイジャン語や文化についても色々な質問がくるときありがたいです。今後こういうチャンスを使ってもっと多くの人達に母国のことを知って頂きたいです。

（第2期プログラムの一部）

【ユーラシア言語文化塾：「口琴・喉唄編—大地からのメッセージ」】

講師：直川礼緒さん（日本口琴協会会長）

内容：口琴は、日本を含めユーラシア大陸に普遍的にとっても良いほど広く使用されている原初的楽器の一つです。忘れていた音色復活し、世界各地で口琴大会も開催され、高度な演奏技術が競われる程になっています。また喉歌は、キリスト教音楽の中で成長したベルカントとは潮流を異にした中央ユーラシアから北極圏にかけて広がっており、人類の発声法の可能性を示す独特の歌い方で多くの人に知られるように成りました。言語文化塾は今後継続的に取り上げていきたいと思ひます。

日程：10、11、12月の月曜日午後7時から9時まで

A ユーラシア言語文化塾：口琴編「口琴を弾く」；5回コース

（第一回）口琴はどういう楽器か、いつ、どこで演奏されているか、ビデオ、CD、実技（練習）；持ち方、口の当て方、音の出し方

（第二回）アジアと日本の口琴、ビデオ、CD
口琴演奏の実際；面白い音を出す、メッセージを伝える、メロディを演奏する

（第三回）ヨーロッパの口琴、ビデオ、CD
実技（練習）；初級テクニック、舌、ノド、鼻腔の使い方とはじき方

（第四回）サハの口琴、暮らしと文化、ビデオ、CD
実技（練習）；上級テクニック、唇、息の使い方とはじき方

（第五回）口琴の可能性について：口琴の創作と発表

B ユーラシア言語文化塾：喉歌・ホーミー編「喉歌を唄う」；3回コース

（第一回）喉歌・ホーミーとは何か、各地の喉歌、ビデオ、CD、実技；

（第二回）喉歌・ホーミーの原理と実際、ビデオとCD、民族による違い、実技

（第三回）喉歌・ホーミー作品の創作と発表

■親陸旅行のご案内

毎年恒例の夏の親陸旅行を実施します。今年は以下の2コースです。ふるってご参加ください。詳細・お問い合わせ・お申し込みはクラブ事務局まで。

◆サマルカンドのホームステイとシルクロードの陶芸工房視察

—ユーラシアンクラブ親陸旅行、言語文化塾実地編—

★旅行の目的 中央アジアを旅行するとふと目にするエキゾチックな焼き物。さまざまな人物、カラフルな陶器。今回の親陸旅行は、こうしたシルクロードの芸術文化ふれあいツアーとして陶芸職人の工房を訪ねたり、サマルカンドやブハラの観光地だけでなく郊外を訪ね、観光コースにはないシルクロードの暮らしと文化に接します。

生活に密着した民族料理や芸能も楽しめます。クラブの会員でもある留学生、クラブの現地会員（サマルカンド外国語大学日本語教師）の案内と通訳で、東京・新宿で実施しているユーラシア言語文化塾の実地バージョンとなります。

★日時 2000年8月20日から8月27日まで8日間

★場所 ・大型バスをチャーターし、モスクの路地裏から郊外まで訪ねます
・サマルカンドの有名なレギスタン広場やアフラシヤブの遺跡等々
・サマルカンド郊外の暮らし探訪、サマルカンド人邸宅にホームステイ
・ブハラ旧市街視察、サウナで一汗、陶芸工房へ、陶芸家と懇談
・タシケントのバザール、陶芸工房視察、陶芸家と懇談

★募集人員 20人

★費用 23万円 ビザ代、名古屋—サマルカンド—タシケント—名古屋、バス借上げ等現地交通費、民宿費用・食事込み。

◆ナナイ・ウデゲの友人たちを訪ねるエコカルチャーツアー企画/第二弾

—ユーラシアンクラブの夏のアムール・沿海州少数民族村親陸旅行—

★旅行の目的 ユーラシアンクラブが1992年以来交流を続ける日本海対岸の先住少数民族ナナイ・ウデゲの民族村；シカチアリヤン村、クラスニヤール村を訪ね、人々の言語歴史文化を理解し、親睦を深め、一層の協力を促進する。日本語に最も近いソングース語を学んだり、子供たちの芸能、村の友人たちとのキャンプファイア。映画デルスウザーラゆかりのピキン川の原生林で狩猟小屋に泊まり、バードウォッチングや釣りを楽しめます。

★日時 2000年8月7日から8月14日まで8日間

★場所 ・ナナイの村：ハバロフスク区シカチアリヤン村
・ウデゲの村：沿海地方クラスニヤール村

★募集人員 10人

★費用 15万円 現地交通費、民宿費用（食事込み）
アムール川、ピキン川航行ボート借上げ費用。

■極東民族村への旅行報告

5月の連休にロシア沿海州の民族村シカチアリヤンとクラスニヤールへの親陸旅行が実施されました。参加者の井堀幸雄さんから写真を頂きました。



シカチアリヤンの子供たちによる民族舞踏。遅くもなく速くもないその独特のテンポは、なにか懐かしささえ感じます。



アムールの旭日



大野さん、クマと戯れるの図

■チェチェン・特別セミナー開催

今年3月3日に池袋の東京芸術劇場において「チェチェン・特別セミナー」が開催されました。寺沢潤世(日本山妙法寺僧侶)・クリス＝ハンター(CPCD代表)・ピクトル＝ボブコフ(NGO・OMEGA代表)・マディナ＝マゴマドワ(NGO・チェチェン母親協会代表)の各氏がチェチェン問題について報告を行いました。当日は参加者が多く会場は盛況で、報告者の話に熱心に耳を傾けていました。クラブでは、今後も紛争地フォーラムを継続的に開催し、これらの問題に真摯に取り組んでいきたいと考えています。なお、当日の参加者やクラブ会員の方々からのチェチェンへのカンパが約8万円に達しました。また、チェチェン子供アンサンブル「ノボチョ」を日本へ招聘するための支援金も約3万円に達しました。ご協力ありがとうございました。

ところで、寺沢潤世さんが、ロシア共和国FSB(KGBの改称)のチェックリストに載ったことを理由に入国ビザの発給を拒否されました。クリス＝ハンター氏がこの事実を全世界の平和団体、人権団体に周知し、抗議しています。以下は抗議文の抜粋です。

Dangerous precedent in Russia— Reverend Junsei Terasawa, a Japanese Buddhist monk, was recently officially denied a Russian visa by the Russian Ministry of Foreign Affairs. This was because of his speech against the ongoing war in Chechnya at the UN Commission for Human Rights in Geneva April 2000. …(一部省略)

…When staying in Russia, Reverend Terasawa protested against violence since the very start of the first Chechen military campaign, regularly taking part in meetings and pickets against the war, along with his disciples. He was also active in organising inter-religious joint prayers for peace and was one of the chief initiators of The March of Mothers' Compassion "For Life" from Moscow to Grozny in 1995. He frequently visited the conflict zone. …(一部省略)

…Finally, on 6 June 2000, Mr. D.Zakharov, Attache at the Dept. of Consular Service, Ministry of Foreign Affairs of Russia, informed of an "official denial" in issuing a visa for Japanese citizen Mr.Terasawa Junsei. The official also explained that Mr. Terasawa was not marked in any of the penalty lists of the MFA, thus being "clean" as far as the visa regime is concerned. Furthermore, the invitation had already been issued on 16 May 2000. Nevertheless, the invitation was retained upon the instruction of the Federal Security Service of Russia, as the aforementioned person was on a certain so-called "closed list of the FSB" (FSB is the new name for the KGB). Thus, no official or other reasons for the denial were disclosed.

The reasons are evident, however. The fact is that being a representative of the NGO 'International Peace Bureau', Rev. Terasawa participated in the 56-th Session of the UN Commission on Human Rights, held from 20 March to 28 April, 2000, in Geneva. This Commission is the supreme international board for human rights in all countries of the world. Junsei Terasawa took advantage of his right to speak out, which every NGO representative accredited has, and made an oral statement at this Commission against the war in Chechnya. …(一部省略).

… Evidently, it was entirely due to these circumstances that the Russian authorities took measures in return, as a kind of revenge on Rev. Terasawa. Such steps are practised in authoritarian states only, and were typical for the former Soviet Union, but are in no way acceptable for countries which claim to be part of the democratic European community.

We must consider the fact that all the numerous actions and activities against the war in Chechnya conducted in Russia by Reverend Terasawa, and even his arrest and five days' detention in a filtration camp in Chechnya in 1995 (where he and his disciples had their finger prints taken), were not followed by any restrictions for his stay in Russia. Only after the country has become generally gripped in the hands of the security services, has such a diplomatic revenge been able to occur, in return for the open condemnation of grave violations of human rights in Russia on the international arena.

We call on all organisations and institutions, all those of good will in Russia and abroad, to raise their voices for the legal right of Reverend Junsei Terasawa to the unobstructed entrance into the Russian Federation. We request everyone to take all steps possible for his official rehabilitation and the restoration of Justice.

Today, the rights and freedom of a single person are concerned; tomorrow – the same may happen to everyone...

■極東少数民族支援について

ロシア沿海州のナナイ族の民族村シカチアリヤンでは、現在ナナイ語の教科書を作るという動きがあります。また、ウデグ族の民族村クラスニヤールでは、地元の小学校において民族教育が行われていますが、その教員への給与保証がなされておられません。160人の生徒に対して先生ひとり、一ヶ月の給与は20ドルだそうです。これらの課題についてクラブでできる支援について考慮中です。

■アロハンさん取材でモンゴルへ

内モンゴル出身で映画脚本家・写真家のアロハンさんが取材でモンゴルを訪ねました。以下はその報告です。

5月23日から6月9日まで、モンゴルのザブハン県の3つのソム(郡)の雪害の被害が大きかった遊牧民を訪ね、ゲルに泊まり、転々としながら取材してきた。野原の至るところ家畜の死骸だった。馬・牛・駱駝のような大型家畜の被害がもっとも大きかった。移動、遊牧の交通手段としての馬・駱駝を全部失った遊牧民は広い草原を歩いて放牧するしかない。疲れて倒れ入院している遊牧民もいた。牛を全部失った遊牧民はヨーグルト・チーズ・クリームなど作れない。しかしなにも知らない幼い子供たちは「ヨーグルト食べたい、チーズ食べたい」と泣いていた。被害がもっとも大きかった家族でも小麦粉一袋以外のいかなる援助も受けていなかった。今も雨が降らない日々が続いている。事態は深刻だ。「遊牧民を助けて」と呼びかけたい。

■サハのイリーナさんから手紙がきました

昨年9月まで一年間のプログラムで千葉大学に留学していたサハ共和国のイリーナさんからうれしい便りが届きました。

大野さん、山口さん、美奈さんやユーラシアンクラブのメンバー、お久しぶりですね。お元気ですか？

長い間連絡できなかったから失礼しました。

実は6月5日にやっと卒業しました。卒業論文のテーマは「(日本語に基づいて)外国語学部以外の学生に日本語表記を教授する基本的な方法論」でした。日本語について話した人は私だけだったので、皆さんからいろいろな質問を聞かれました。一番おもしろかったと思います。

ロシアで卒業はとて難しいから、よく頑張らなければなりません。今休み中です。両親を手伝っています。別荘はまだです。父は、大野さんとユーラシアンクラブの人が「来年ヤクーツクにいらっしゃってください」と言いました。

バラムイギンさんはもうヤクーツクに帰ることになりました。忙しいらしいです。アンドレイさんは働いていますからあまり会いませんが、ナターシャさんは大学の先生ですからよく会います。オクサナさんはもうヤクーツクに帰りました。アパートを買って秋からお母さんと住んでいるそうです。

8月4日から14日までヤクーツクで「デチ・アズィー」という国際スポーツゲームを行うことになりました。2回目です。ヤクーツクはいろいろなことをします。

それではお元気でいてください。

<次号会報予告>

次の会報は少数民族特集です。昨年度の文化講座でも取り上げられたシボ・ダフル・マリなどの各民族についての情報です。また3月に行われた「チェチェン・特別セミナー」の詳細、ベラルーシからの通信も掲載します。

<クラブ短信>

★クラブでは、ニュースレター・会報・ホームページなどの情報発信を一元管理するために、ユーラシア・メディア・フォーラムを立ち上げました。

★元ジャイカの研修生として留学していたキルギスのヌルディンさんがセミナー参加のため来日しました。

★2年前、留学生として来日したチムールベクさんの夫人エルミラさんが慶応大学で学んでいます。夏の休暇をいっしょに過ごすため、チムールベクさんもこの夏再び来日します。

発行：ユーラシアンクラブ

発行人：大野遼

編集人：井出晃憲

2000年7月1日発行

住所：〒259-1206 神奈川県平塚市真田743-20

電話：0463-50-3335

ファクス：0463-50-3336

ホームページ：<http://homepage1.nifty.com/EURASIANCLUB/>